

智能は幼児期に言葉に依って創られる

従来「智能は生れつきに依る」と考へられてゐましたが、近年は「幼児期に創られる」それも「言語によって創られる」といふ考へが強まってきました。

フランスの言語心理学者ポール・ショシャルは、フランスの小学校に就学してゐる黒人の子供たちの生育歴を1人1人丹念に調査しました。そして「アフリカで生れ、そこで幼児期を過した子供たちの智能は、フランスの子供たちの智能より明らかに低い、アフリカで生れてもフランスで幼児期を過した千供たちの平均IQは、フランスの子供たちの平均IQに劣らなかつた」といふ事実を明らかにしました。

右の事実は「智能は生れつきに依らない。幼児期に創られるものである」ことを教へてくれます。また、「智能は幼児期の言語活動に依って創られる」ことを推測させてくれます。ではなぜ「智能は幼児期に言語に依って創られる」のでせうか。

人間の脳はよくコンピューターに譬へられます。然し、似てはゐても、大変な違ひがあります。コンピューターは初めからハードウェアの容量が決めてゐて、それに見合ったソフトウェアしか入力できません。いくら立派なソフトウェアを作っても人力できないのです。

これに対して人間の脳は、人力されたソフトウェアに依ってハードウェアはいくらでも容量が大きくなるやうに準備されてゐるのです。つまり、ソフトウェアが立派になればそれに従ってハードウェアも大きくなるのです。そして大きくなったハードウェアが更に立派なソフトウェアを入力し易くする、といふやうに相互に影響を与へ合ひながら発達して行くのです。

所で、人間の脳は二十歳頃までにハードウェアの発達を終へますが、幼児期の発達が特に目覚しく、この時期に成人の脳の60から70パーセントまで発達し、小学校に入学する6歳頃には80パーセントまで発達するさうです。既に述べましたやうに脳のハードウェアとソフトウェアとは相互に影響し合つて発達して行くものですから、幼児期の脳の使ひ方で決つたハードウェアの容量の大小に依つてその後の発達が左右されるのです。脳のソフトウェアは言葉が基幹ですから、「幼児期に吸収する言葉の質と量に依つて智能が決定する」のは当然だと言へませう。